

県立延岡病院臨床検査科

赤木美与 久方尚一 宮田富美  
宮原加奈 津曲洋明 石原 明

【はじめに】当院生理検査室では2006年5月から富士通製電子カルテシステムに移行するにあたり、生理検査システムを導入したが、従来の機器を有効利用するために、フクダ電子と日本光電の2つのシステムを共存させる形をとった。今回、そのシステムの運用方法と今後の構想について報告する。

【運用方法】当院で今回採用した生理検査システムは図1および図2のとおりである。

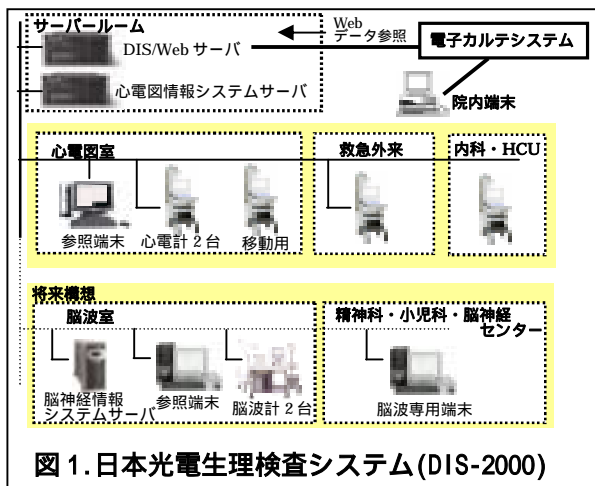


図1. 日本光電生理検査システム(DIS-2000)

【システムの効果・問題点】効果としては、業務の効率化と結果報告の迅速化、履歴検索・時系列比較が可能になったこと等が挙げられ、問題点としては、システムオフライン機器(脳波・肺機能・トレッドミル・超音波)への対応、EFS8000のオーダー連携が挙げられる。

【これからの運用と課題】脳波計、肺機能、トレッドミルを電子カルテ対応のものに更新することで各端末から波形の閲覧、所見の変更等が可能になるだろう。超音波検査については、動画が多くデータの容量が大きすぎるため、現在の生理検査システムでは対応できない。そのため大容量の動画対応サーバ(超音波画像ファイリングシステム)が必要になる。また、心電計に関しては、現在各メーカーで規格が異なるが、今後規格が心電計統一規格に統一されればメーカーは関係なくどちらの心電計も選択することができるようになるだろう。システムダウン時の対応においては、システム導入以前の運用(伝票対応・ペーパー報告)でカバーし、復旧後電子カルテ上にデータを送信する予定であるが、まだ実際に発生したことがないためマニュアルとして確立までは至っていない。

【まとめ】2つのシステムを共存させることで、従来の機器を有効利用することができたと思う。また、生理検査システムの導入により、ペーパーレス報告による結果報告の迅速化、データの参照と情報の共有化が図られた。それらが技師の業務の効率化、患者サービスの向上に繋がったと思われる。

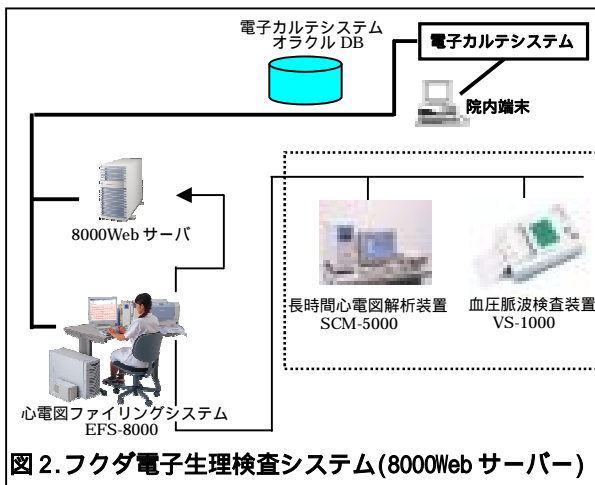


図2. フクダ電子生理検査システム(8000Webサーバ)